

これまででも

そして、これからも

島はずっと

日本の宝物

壱岐における日本遺産の構成文化財は、  
弥生時代のものばかりではない。

島には約二百八十基もの古墳があり、

そこから多くの貴重な出土品が発掘されている。

十六世紀中頃には、朝鮮王朝からの信頼が厚かった

源壹みなとのいっによって生池城なまいけが築城され、

その城跡は構成文化財に認定されている。

源壹はここを拠点として朝鮮と正式に交易を行っていたという。

また同じ時代、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際には海上の中継地となることから、

わずか四ヶ月で出城しゅつじょう（勝本城かつもと）が築かれており、

大手門の石垣などが今も当時を偲しのばせる。

それぞれの時代で大陸と融和や衝突を繰り返してきた壱岐島。

島内で最も高い岳たけの辻つじの山頂からは、

海に囲まれた島を一望でき、「国境の島」を実感できる。

この岳の辻もまた古くから烽火台のびしや遠見番所とんみばんじょなどが設置され、

国防の要衝ようしゅうとして重要な役割を果たしてきた。

これまでに認定された日本遺産は全国で五十四件。

文化庁は東京オリンピックが開かれる

二〇二〇年までに百件を目指すとしている。

その輝かしい第一号の称号を手にしたこの島は、

きっと日本の宝のあるべき姿を見せてくれることだろう。

いや、もうその兆しは見えていた。